

在日世界人差別の実態

戦前戦後、数十万人もの日本人が
様々な生活背景から夢を見て南米に移住した。
それから数十年・・・

1990年6月、入管法が改められたことにより、以来、日本に新たな夢をみて、今度は移住した日本人の子孫たちが来日し始めた。現在、日本で暮らす世界人(外国人)は約200万人とも言われている。僕も1990年に来日した一人である。当時11才であった。あれから十数年・・・

小・中・高校また社会の中で直面してきた「差別・いじめ」などの問題を、現在では多文化共生の架け橋として、各方面で語り続けています。

講師

日系ブラジル人3世

ぐ し ひ ゆ う ま
具志 アンデルソン 飛雄馬

多文化共生NPO世界人 理事長/ 国際化対応教育指導員



講演テーマ

1. だから生きるんだ

～「元非行」世界人が語る差別の実態～
～多文化共生へのかけはし～
～元暴走族を立ち直らせたものとは～

中学生・高校生
行政・教師・企業
一般向き

日系ブラジル人として来日後、「外国人」として学校や社会でうけた差別やいじめ。このことから非行に走り暴走族の総長にまでなるが、その後の出会いから現在は多文化共生社会を目指す理事長として活躍している。

自身の体験をもとに在日世界人に向けられる差別の実態について、またそこから得た『生きる』ことについて体験談から伝えていきます。

2. 多文化共生社会の実現を目指して～差別事象から学ぶ～

行政・教師
企業向き

現在、日本全国で暮らす在日世界人は200万人を超えていると言われ、少し前までは「出稼ぎ」と言われる時代があった。今では長期滞在や永住権を希望する方が増加している。グローバル化と言われる時代の中で多文化共生社会を実現させることは重要なことであり、そのためにも一外国人としてではなく一国民として受け入れ共生していく必要がある。在日世界人の増え続ける理由と現状、また、日系人と言われる人たちのルーツ。そして日常的に起きる差別や偏見から、我々が何を学ばなければならないのかについて話します。

講師プロフィール

ブラジルに移住した日本人の子孫であり、約20年前に来日。来日後、自分自身、学校・社会で「いじめ」などの問題に直面し、非行に走る。そこからは想像もつかない波乱万丈な人生を送る。現在、自分の体験をもとに三重県内の小・中・高校で国際化対応教育指導員として、子どもたちの指導・相談サポートを行っている。

また、NPO活動を通じて、実態調査・生活相談事業・署名活動・請願活動や市民、学生、企業、行政、教師を対象に講演活動を行っている。

企画・制作 セントラルプロモーション(セントラル映電株式会社内)

〒556-0016 大阪市浪速区元町1丁目3番19号

TEL:(06)6641-3822(代表) FAX:(06)6641-6561

E-mail: central@proof.ocn.ne.jp